

スマート・プランニングとは

スマート・プランニング誕生の背景

①都市交通施策のニーズの変化

「短中期的・ミクロな交通施策」

にまでニーズが拡大

●長期的・マクロ

- 幹線道路ネットワークの検討
- 鉄道ネットワークの検討



●短中期的・ミクロ

- 駅周辺地区における回遊の把握
- 道路空間の再配分
- 交通安全対策
- 結節点整備
- 歩行者・自転車環境の充実

ミクロな範囲での施策に対応するため、**ゾーン内の詳細な人の動きを把握**することが必要

②交通関連ビッグデータの登場

「全国あらゆる場所」で 「24時間365日」取得・蓄積される 「ビッグデータ」が登場

●携帯電話基地局データ

- 大量サンプル、広域的な移動の把握

●スマートフォンGPSデータ

- 正確な位置情報

●Wi-Fiアクセスポイントデータ

- 地下にも強い

●交通系ICカードデータ

- 利用者の正確な情報



データの偏りや**加工方法**の確認が必要

個人単位の行動データをもとに

「人の動きをシミュレーション」し、
「施策実施の効果を予測」した上で、

施設配置や空間形成、交通施策を検討する計画手法

福祉施設の立地を誘導する場合・・・

地図を用いて一定の範囲で地区を切り取り、
その中の住民数や密度を見て、これまでの
経験などを基に立地場所を決定

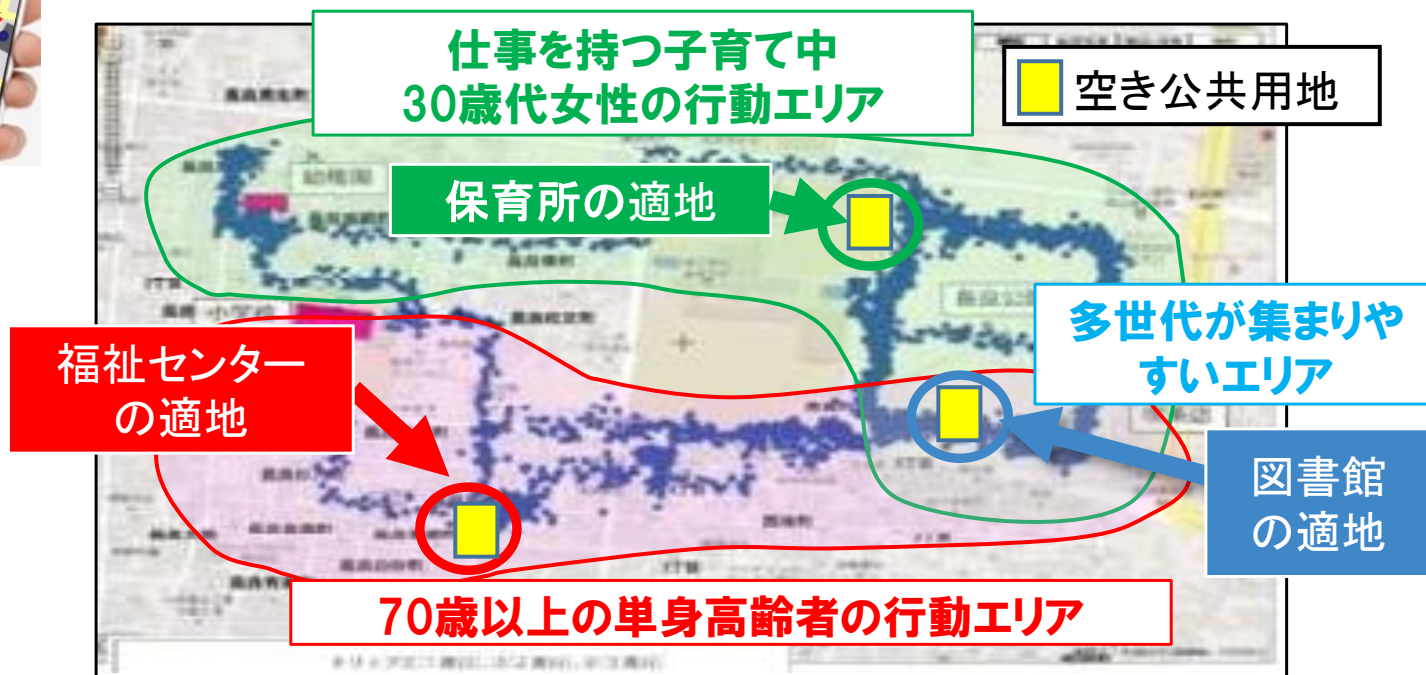


地区にある市町村が所有している土地や空き地に誘導していた

⇒地区内のどこに立地させるべきかは特定できない

⇒本当に立地場所が最適な場所であったかを評価できない

ビックデータを活用して、個人の移動特性を把握し、**施設配置や道路空間の配分を変えた時の「歩行距離」や「立ち寄り箇所数」、「滞在時間」の変化を見て、最適な施設の立地を検討するための計画手法**



行政や民間事業者が**データに裏付けられた共通認識**を持った上で、**最適な施設立地について議論**することが可能になる

WSなど、計画に対する市民等への説明の場において、**具体的なデータを示した上で、複数の立地案を比較した結果の説明が可能になる** ⇒見える化

